

教科 工業(建築)

科目	工業技術基礎	(必修)	授業時数	2 単位
			履修学年	1 学年

目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の諸課題を適切に解決することに必要な基礎的な資質・能力の育成を目指す。
----	---

●学習内容

1 学期	2 4 時間	2 学期	3 0 時間	3 学期	2 4 時間
工業技術の導入	6	基本作業編	18	3. 木造住宅設計図 (配置図・平面図・立面図)	24
1. 「工業技術基礎」を学ぶ にあたって		4. 材料について			
2. 人と技術と環境		5. 測量について			
3. 安全作業の心構え		6. 住宅について			
4. 学習成果の発表の仕方		7. デザイン・インテリアに ついて			
基本作業編		製作編			
1. 図面の表し方	18	1. 住宅を考えよう	12		
2. 寸法のはかり方		2. 木造住宅設計図 (土台・軒先詳細図)			
3. 工具の扱い方					

教材
教科書:「工業技術基礎」実教出版

授業の進め方
工業技術を環境への配慮や安全性を優先した工業製品の生産及び社会基盤整備などの推進を図る視点で捉え、工業の各分野に関わる技術と相互に関連付けるように実践的・体験的な学習活動を行う。
・教科書で基礎的な知識を学び、それをもとにして数々の体験的実習を進める。
・特に建築製図の基礎をしっかりと習得し、2 年次からの製図授業がスムーズに進められるよう学習する。
・毎時ごとの整理整頓や清掃活動は、基本として行うことを重視しています。

●評価規準（身に付ける力）

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	工業技術について工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解している。	工業技術に関する課題を発見し解決する力を身に付けている。	工業技術に関する広い視野をもつことを目指して、協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価方法	課題における取り組み状況などを総合的に評価する。		授業に取り組む姿勢や意欲を総合的に評価する。

単元別 評価規準

1 工業技術の導入

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	工業技術において、正しい知識を持ち、安全な作業ができる、正しい知識を習得している。	基本作業において、適切に思考・判断し、その表現方法に付いて考えることができる。	基本的な作業において、興味・関心を持ち、協働的に実習に取り組んでいる。

2 基本作業編

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	建築の基本的技術を理解し、正しい知識が身に付いている。	建築の正しい技術を理解し、基本的事柄を説明できる力量を身に付けている。	建築の興味・関心を持ち、積極的、協働的に取り組んでいる。

3 製作編

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	建築の設計図を、基本的技術を理解し、正しい知識が身に付いている。	建築の設計図に付いて、正しい技術を理解し、基本的事柄を説明し、表現することができる。	設計図に付いて、興味・関心を持ち積極的、協働的に取り組んでいる。

教 科 工業(建築)

科目 建築構造	(必修)	授業時数 2 単位
		履修学年 1 学年

目 標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、建築物の構造の提案に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 建築物の構造について荷重に対する安全性や材料の特性を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 建築物の構造や建築材料に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。 (3) 安全で安心な建築物の構造を実現する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
------------	--

●学習内容

1 学期	2 4 時間	2 学期	3 0 時間	3 学期	2 4 時間
第1章 建築構造のあらまし 1 建築構造の歴史的発達 2 建築構造のなりたち 3 建築構造の分類 4 建築物に働く力 5 関連する法規と基準 第2章 木構造 1 構造の特徴と形式 2 木材 3 木材の接合	24	第2章 木構造 4 基礎 5 軸組み 6 小屋組み 7 床組み 8 階段 9 開口部	30	第2章 木構造 1 0 外部仕上げ 1 1 内部仕上げ 1 2 木造枠組み壁工法	24

教材
建築構造 (実教出版)

授業の進め方
<ul style="list-style-type: none"> ・授業は教科書を参考にしながら、独自のプリントを中心に進め、デジタル黒板も利用しつつ示される内容をしっかり確認しながらプリントを完成させる。 ・DVD 教材や模型を活用し、実際の現場を意識させイメージを持たせる。

●評価規準 (身に付ける力)

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 <small>(身に付ける力)</small>	建築物の構造や建築材料に関する基礎的な知識や技術を身に付け、現代社会における建築物の構造や建築材料の意義や役割を理解している。	建築物の設計や施工をする際に生じる諸問題の解決を目指して自ら思考・判断し、創意工夫する能力を身につけると共に、その成果を適切に表現できる。	建築物の構造や建築材料に関心を持ち、これらに関する基礎的な知識や技術の習得に意欲を持って取り組むと共に、建築物の設計や施工に活用しようとする態度を身に付けている。
評価方法	・ペーパーテスト (事実的な知識の習得を問う問題及び知識の概念的な理解を問う問題) の結果	・ペーパーテスト ・プリントの記述内容	・授業中の発言内容や行動観察 ・生徒による自己評価や、相互理解の様子及び記述内容

単元別 評価規準

1 建築構造のあらまし

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	建築物の構造について建築構造の種類と特徴を踏まえて理解していること。	建築物の素材や工法に着目して、建築物に関する課題を見いだしている。	建築構造の概要について自ら学び、安全で安心な建築物の構造の実現に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

2 木構造

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	木構造について各部の名称、構成及び機能を踏まえて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	木材の性質や施工法に着目して、木構造に関する課題を見いだしている。	木構造について自ら学び、安全で安心な建築物の構造の実現に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

教 科 工業(建築)

科目 工業情報数理	(必修)	授業時数 2 単位
		履修学年 2 学年

目 標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の各分野における情報技術の進展への対応や事象の数理処理に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数理処理の理論を理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3) 工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理処理を活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
------------	--

●学習内容

1 学期	24 時間	2 学期	30 時間	3 学期	24 時間
第1章 産業社会と情報技術 1. ピュータの構成と特徴 2. 情報化の進展と産業社会 3. 情報化社会の権利とモラル 4. 情報のセキュリティ管理	10	第3章 プログラミングの基礎 1. プログラム言語 2. プログラムの作り方 3. 流れ図とアルゴリズム	16	第8章 コンピュータ制御 1. コンピュータ制御の概要 2. 制御プログラミング 3. 組込み技術と問題の発見・解決	12
第2章 コンピュータの基本操作とソフトウェア 1. コンピュータの基本操作 2. ソフトウェアの基礎 3. アプリケーションソフトウェア	14	第4章 BASIC によるプログラミング 1. BASIC の特徴 2. 四則計算のプログラム 3. 文字データの取り扱い 4. データの読取り5. 選択処理 6. 繰返し処理 7. 配列処理 8. 外部関数 9. グラフィックス	14	第10章 数理処理 1. 単位と数理処理 2. 実験と数理処理 3. モデル化とシミュレーション	12
第6章 ハードウェア 1. データの表し方 2. 論理回路の基礎 3. 処理装置の構成と動作		第5章 C によるプログラミング 1. C の特徴 2. 四則計算のプログラム 3. 選択処理 4. 繰返し処理 5. 配列 6. 関数 7. C による数理処理		第9章 情報技術の活用 1. マルチメディア 2. プレゼンテーション 3. 文書の電子化 4. 問題の発見・解決	
第7章 コンピュータネットワーク 1. コンピュータネットワークの概要 2. コンピュータネットワークの通信技術					

教材
使用教科書: 工業情報数理(実教出版) 718

授業の進め方
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業に集中して取り組み, 教科書の内容をよく理解する。 ・ ワークシートにしっかり取り組み, 学習内容の理解を深める。 ・ 実際にコンピュータの使い方に慣れ, 各種アプリケーションの操作に慣れる。 ・ 実習のレポートは提出期限までに必ず提出する。 ・ 日常生活でのコンピュータの活用を意識して取り組む

●評価規準（身に付ける力）

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	情報技術に関する基礎的な知識と技術を理解し、情報技術を利用した情報の収集・処理・活用のために必要な技術を身に付けている。	諸問題の解決をめざしてみずから思考を深め、問題解決方法を適切に判断する能力を身に付けており、情報技術を活用して情報を処理・表現することができる。	情報技術に関する基礎的な知識と技術に関心をもち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的・実践的な態度を身に付けようとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況の観察 ・定期考査 ・ワークシートの記述 ・課題レポートの提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況の観察 ・定期考査 ・課題レポートの記述内容と発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況の観察 ・提出物，課題レポートの記述内容と発表

単元別 評価規準

第1章 産業社会と情報技術

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	産業社会と情報技術について情報化の進展が産業社会に及ぼす影響などを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	情報の管理や発信に着目して、産業社会と情報技術に関する課題を見出すとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善に取り組む。	産業社会と情報技術について自ら学び、情報及び情報手段の活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

第2章 コンピュータの基本操作とソフトウェア

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	コンピュータの基本的な取り扱い方法を理解し、操作技術を習得している。情報の種類によって適切なアプリケーションソフトを選択することができる。	各種のアプリケーションソフトウェアを活用して情報を処理し、必要な形式で出力できる。	コンピュータシステムについて自ら学び、情報技術の活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

第6章 ハードウェア

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	コンピュータシステムの構成や動作原理・入出力装置などについて理解するとともに、周辺装置を適切に接続する技術を習得している。	コンピュータで用いるデータの表し方、演算や制御を行う論理回路について論理的に考察できる。ハードウェアのしくみと役割を理解し、目的に応じた周辺装置の選択し提案できる。	コンピュータの処理装置や周辺装置に関心をもち、情報処理機器を正しく効率的に利用できるように意欲的に取り組もうとしている。

第7章 コンピュータネットワーク

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	コンピュータネットワークの概要を理解するとともに、通信技術であるプロトコルの設定や操作技術を習得している。	ネットワークの構成について説明することができ、インターネット接続について適切な方法を提案することができる。また適切なプロトコルを利用できる。	身近にあるコンピュータネットワークに関心をもち、接続の仕方、ネットワーク機器、プロトコルについて積極的に理解しようとしている。

第3章 プログラミングの基礎

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	コンピュータに処理をさせるために必要なプログラム言語やアルゴリズムについて理解している。	プログラムを記述するために必要なアルゴリズムを考えて流れ図として表現できる。	プログラムの作り方に関心を持ち、問題解決の手段として積極的に活用しようとしている。

第4章 BASICによるプログラミング

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	BASIC プログラムの作成手順を理解し、簡単なプログラム作成のための技術を身に付けている。	簡単なプログラムを読んで、どんな結果が出力されるか考察できる。問題を解決するための簡単なプログラムを作成できる。	プログラムの作成手順に関心を持ち、自らプログラムを作成しようと積極的に取り組もうとしている。

第5章 Cによるプログラミング

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	Cの特徴を理解している。データ処理、選択処理、繰返し処理、配列、関数について基本的な事項を理解している。	Cの特徴をBASICと比べて考察できる。簡単なプログラムを読んで、どんな結果が出力されるか考察できる。問題を解決するための簡単なプログラムを作成できる。	Cを用いたプログラムの作成手順に関心を持ち、自らプログラムを作成しようと積極的に取り組もうとしている。

第8章 コンピュータ制御

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	コンピュータ制御の考え方、方法、組み込み技術について理解している。実際のデータを活用し、数値処理に留意してグラフ化し、データの特徴を読み取ることができる。	身にまわりの機器に組み込まれているコンピュータについて、特徴やどのような制御を行っているか説明することができる。	身近な製品に利用されている組み込み技術について関心を持ち、身にまわりのコンピュータ制御プログラミングと工業に関する事象の数値処理について自ら学び、情報技術の活用に関心を持ち主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

第10章 数値処理

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	国際単位系、数式モデルの扱い方、シミュレーションの方法について理解している。表計算ソフトウェアを用いた解析手順を行う技術を習得している。	いろいろな事象をモデル化によって数式として扱う方法を理解し、適切な方法を選択して説明できる。	いろいろな事象をモデル化によって数式として扱う方法に関心を持ち、問題解決のために積極的に利用しようとしている。

第9章 情報技術の活用

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	課題に対して適切に情報を収集し、有効な情報を選択して活用することができる。また、情報を文書として保管することができる。	課題に対して適切に情報を収集し、有効な情報を選択し、活用することができる。また、情報を文書として保管することができる。	情報技術の活用に主体的に取り組もうとしている。

教 科 工業(建築)

科目	製図	(必修)	授業時数	2 単位
			履修学年	2 学年

目 標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、建築分野の製図に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 建築分野に関する製図について日本工業規格及び国際標準化機構規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 製作図や設計図に関する課題を発見し、建築に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3) 建築分野における図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う</p>
-----	---

●学習内容

1 学期	24 時間	2 学期	30 時間	3 学期	24 時間
○製図の基礎 ・平家建専用住宅設計図（平面図）の作図 ・平家建専用住宅設計図（配置図）の作図 製図の基礎を十分把握させ、建築製図に関する基本的な知識と技術を総合的に習得させる。	24	○製図の基礎 ・平家建専用住宅設計図（立面図、断面図） ・平家建専用住宅設計図(各伏図、軸組図) ・平家建専用住宅設計図(断面詳細図) 詳細図面を作図し建築構造の理解を深める。	30	○製図の基礎と応用 ・平家建専用住宅の自由設計（プランニング） ・平家建専用住宅の自由設計（配置図、平面図） 自由設計を通し様々な建築図面を正しく読み、図面を構想し作成する能力を養えるようにする。	24

教材
建築設計製図（実教出版）工業 705

授業の進め方
<ul style="list-style-type: none"> ・工業の各分野に関する製図について日本産業規格を踏まえて理解させ、関連する技術を身に付ける。 ・製作図や設計図に関する課題を発見し、工業に携わる者としての科学的根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する能力を養う。 ・工業の各分野における部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指す。 ・毎時ごと整理整頓や清掃活動は、基本として行うことを重視しする。

●評価規準（身に付ける力）

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	・工業の各分野に関する製図について日本産業規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	・製作図や設計図に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。	・工業の各分野における部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価方法	・図面の課題	・図面の課題	・必要な出席数 ・授業や課題への取り組み姿勢

単元別 評価規準

1 製図の基礎

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	・製図の役割について工業の各分野の製図の規格と図面の表し方を踏まえて理解させるとともに、手描きによる図面の作成に必要な技術を身に付けている。	・製図の規格と図面の表し方に着目して、製図の役割に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善している。	・製図の役割について自ら学び、工業の各分野の製図に主体的かつ協働的に取り組んでいる。

教 科 工業(建築)

科目	建築構造	(必修)	授業時数	2 単位
			履修学年	2 学年

目 標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、建築物の構造の提案に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 建築物の構造について荷重に対する安全性や材料の特性を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 建築物の構造や建築材料に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。 (3) 安全で安心な建築物の構造を実現する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
------------	--

●学習内容

1 学期	24 時間	2 学期	30 時間	3 学期	24 時間
第3章鉄筋コンクリート構造 1 構造の特徴、構造形式 2 鉄筋の寸法と形状 品質・表示 3 コンクリートの材料と種類 コンクリートの調合 コンクリートの品質 4 基礎の形状と計画	24	5 躯体 鉄筋コンクリート構造の主体構造(柱、梁) 鉄筋コンクリート構造の主体構造(壁、階段) 鉄筋コンクリート構造の主体構造(各部の配筋) 鉄筋コンクリート構造の主体構造(各部の配筋) 6 仕上げ 鉄筋コンクリート構造の仕上げ	30	7 壁式構造 壁式構造の特徴、構造形式 8 プレストレストコンクリート PCの構造としくみ 第4章 鋼構造 1 鋼構造の特徴、構造形式 2 鋼と鋼材、鋼材の接合方法 3 鋼構造の基礎、骨組、仕上げ	24

教材
建築構造 (実教出版)

授業の進め方
<ul style="list-style-type: none"> ・授業は教科書を参考にしながら、独自のプリントを中心に進め、デジタル黒板も利用しつつ示される内容をしっかり確認しながらプリントを完成させる。 ・DVD教材や模型を活用し、実際の現場を意識させイメージを持たせる。

●評価規準 (身に付ける力)

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	建築物の構造や建築材料に関する基礎的な知識や技術を身に付け、現代社会における建築物の構造や建築材料の意義や役割を理解している。	建築物の設計や施工をする際に生じる諸問題の解決を目指して自ら思考・判断し、創意工夫する能力を身につけると共に、その成果を適切に表現できる。	建築物の構造や建築材料に関心を持ち、これらに関する基礎的な知識や技術の習得に意欲を持って取り組むと共に、建築物の設計や施工に活用しようとする態度が身に付けている。
評価方法	・ペーパーテスト (事実的な知識の習得を問う問題及び知識の概念的な理解を問う問題)の結果	・ペーパーテスト ・プリントの記述内容	・授業中の発言内容や行動観察 ・生徒による自己評価や、相互理解の様子及び記述内容

単元別 評価規準

1 鉄筋コンクリート構造

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	鉄筋コンクリート構造について各部の名称、構成及び機能を踏まえて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	コンクリートの性質や施工法に着目して、鉄筋コンクリート構造に関する課題を見いだしている。	鉄筋コンクリート構造について自ら学び、安全で安心な建築物の構造の実現に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

2 鋼構造

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	鋼構造について各部の名称、構成及び機能を踏まえて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	鉄骨の性質や施工法に着目して、鋼構造に関する課題を見いだしている。	鋼構造について自ら学び、安全で安心な建築物の構造の実現に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

教 科 工業(建築)

科目	建築計画	(必修)	授業時数	2 単位
			履修学年	2 学年

目 標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、建築物の計画に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 建築物の計画について住空間の快適性やエネルギーを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 建築物の計画に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3) 安全で快適な建築物を計画する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
-----	--

●学習内容

1 学期	24 時間	2 学期	30 時間	3 学期	24 時間
・ 建築計画の概要	12	・ 建築の移り変わり(わが国の建築)	8	・ 建築物の内外の環境(換気と通風)	6
・ 建築の空間と造形	12	・ 建築の移り変わり(西洋建築)	8	・ 建築物の内外の環境(伝熱と結露)	6
		・ 建築の移り変わり(近代建築)	8	・ 建築物の内外の環境(音響)	6
		・ 建築物の内外の環境(気候、日照と日射)	3	・ 建築物の内外の環境(色彩)	6
		・ 建築物の内外の環境(採光と照明)	3		

教材
建築計画(実教出版)749

授業の進め方
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業は教科書を参考にしながら、独自のプリントを中心に進め、デジタル黒板も利用しつつ示される内容を しっかり確認しながらプリントを完成させる。 ・ DVD 教材や模型を活用し、実際の現場を意識させイメージを持たせる。

●評価規準(身に付ける力)

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	建築物の歴史や環境に関する基礎的な知識を身に付け、現代社会における建築の環境計画の意義や役割を理解している。	建築物の設計や計画をする際に生じる環境問題の解決を目指して自ら思考・判断し、創意工夫する能力を身につけると共に、その成果を適切に表現できる。	建築物を取り巻く環境に関心を持ち、これらに関する基礎的な知識や技術の習得に意欲を持って取り組むと共に、建築物の環境計画に活用しようとする態度を身に付けている。
評価方法	・ ペーパーテスト (事実的な知識の習得を問う問題及び知識の概念的な理解を問う問題)の結果	・ ペーパーテスト ・ プリントの記述内容	・ 授業中の発言内容や行動観察 ・ 生徒による自己評価や、相互理解の様子及び記述内容

単元別 評価規準

1 建築の移り変わり

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	日本と西洋の古代から近世までの建築の歴史と、近代から現代にかけてのそれらの展開を理解している。	世界の建築物や構造物について、その国の成り立ち、社会情勢、気候条件の違いが建築物にどのような影響を与えたか思考することができた。	日本と世界の建築物と歴史について自ら学び、現代の建築物を取り巻く環境について照らし合わせ、主体的に取り組もうとしている。

2 建築と環境

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	建築物に影響する、気候条件、社会的条件、などの環境についての知識を習得している。	優れた建築を実現するため、取り巻く環境、都市計画、環境工学、建築設備の知識の習得だけでなく意匠に対する考察もできた。	光、熱、空気などの自然条件が建築物に与える影響や、快適な生活環境を作るにあたっての基本的な知識の習得に積極的に取り組んでいる。

教 科 工業(建築)

科目	実 習	(必修)	授業時数	2 単位
			履修学年	3 学年

目 標	工業（建築）に関する基礎的な技術・技能の見方・考え方を働かせ、工業技術に関する基本的知識・技術・技能を習得する。 ・基礎的技術を実験・実習によって体験させ、工業（建築）への興味・関心を高める。 ・平面図・立面・図・断面図などを正しく読み、立体化して軸組模型を制作する能力を育てる。
-----	--

●学習内容

1 学期	24 時間	2 学期	30 時間	3 学期	24 時間
○平屋建て専用住宅の軸組模型制作 ・各図面の作図 ・基礎部の制作 図面をもとに、1/20 の縮尺で模型にしていく過程で木構造に関する基本的な知識と技術を総合的に習得させる。	24	○平屋建て専用住宅の軸組模型制作 ・土台・床・柱・梁・筋交いの制作（床組・軸組） 木構造の理解を深める	30	○平屋建て専用住宅の軸組模型制作 ・小屋束・屋根の制作（小屋組） ・仕上げ ・平家建専用住宅の自由設計（プランニング）	24

教材
建築設計製図（実教出版）工業 305

授業の進め方
<ul style="list-style-type: none"> ・工業の各分野に関する製図について日本産業規格を踏まえて理解させ、関連する技術を身に付ける ・木構造に関する課題を発見し、工業に携わる者としての科学的根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する能力を養う ・各分野における部材や製品の図面の製作及び図面から制作情報を読み取る力の向上を目指す

●評価規準（身に付ける力）

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身の付ける力)	・工業の各分野に関する製図について日本産業規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている	・製作図や設計図に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている	・工業の各分野における部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている
評価方法	・授業態度や発言内容及び作品の成果	・授業態度や発言内容及び作品の成果	・必要な出席数 ・授業や課題への取り組み姿勢

単元別 評価規準

1 実習の基礎

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身の付ける力)	・図面の表し方を踏まえて理解させるともに、図面から模型にしていくために必要な技術を身に付けている	・製図の規格と図面の表し方に着目して、模型にしていく課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善している	・実習の役割について自ら学び、工業の各分野の実習に主体的かつ協働的に取り組んでいる

教 科 工業(建築)

科目	製図	(必修)	授業時数	2 単位
			履修学年	3 学年

目 標	製図に関する基本的な製図の見方・考え方を働かせ、製図に関する日本産業規格について学習し、建築科の専門分野の製図について基礎的な知識と技術を習得させる。 配置図・平面図・立面図・断面図などを正しく読み、図面を構想し作成する能力を育てる。
-----	--

●学習内容

1 学期	24 時間	2 学期	30 時間	3 学期	24 時間
○製図の基礎 ・2階建専用住宅設計図(平面図)の作図 ・2階建専用住宅設計図(配置図)の作図 製図の基礎を十分把握させ、建築製図に関する基本的な知識と技術を総合的に習得させる。	24	○製図の基礎 ・2階建専用住宅設計図(立面図、断面図) ・2階建専用住宅設計図(各伏図、軸組図) ・2階建専用住宅設計図(断面詳細図) 詳細図面を作図し建築構造の理解を深める	30	○製図の基礎と応用 ・平家建専用住宅の自由設計(プランニング) ・平家建専用住宅の自由設計(配置図、平面図) 自由設計を通し様々な建築図面を正しく読み、図面を構想し作成する能力を養えるようにする。	24

教材
建築設計製図 (実教出版) 工業 305

授業の進め方
<ul style="list-style-type: none"> ・工業の各分野に関する製図について日本産業規格を踏まえて理解させ、関連する技術を身に付ける ・製作図や設計図に関する課題を発見し、工業に携わる者としての科学的根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する能力を養う ・工業の各分野における部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指す

●評価規準 (身に付ける力)

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	<ul style="list-style-type: none"> ・工業の各分野に関する製図について日本産業規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている 	<ul style="list-style-type: none"> ・製作図や設計図に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている 	<ul style="list-style-type: none"> ・工業の各分野における部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・図面の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・図面の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な出席数 ・授業や課題への取り組み姿勢

単元別 評価規準

1 製図の基礎

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	・製図の役割について工業の各分野の製図の規格と図面の表し方を踏まえて理解させるとともに、手描きによる図面の作成に必要な技術を身に付けている	・製図の規格と図面の表し方に着目して、製図の役割に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善している	・製図の役割について自ら学び、工業の各分野の製図に主体的かつ協働的に取り組んでいる

教 科 工業(建築)

科目 建築計画	(必修)	授業時数 2 単位
		履修学年 2 学年

目 標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、建築物の計画に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 建築物の計画について住空間の快適性やエネルギーを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 建築物の計画に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。 (3) 安全で快適な建築物を計画する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
------------	---

●学習内容

1 学期	24 時間	2 学期	30 時間	3 学期	24 時間
建築と環境 (伝統と結露・日照と日射)	8	・各種建築物の計画 (集合住宅の計画)	8	・都市と地域の計画 (建築と地域の計画・まちづくり)	6
・建築と環境 (採光と照明・色彩・音響)	8	・各種建築物の計画 (集合住宅・事務所の計画)	8	・建築設備の計画 (概要、給排水・衛生設備)	6
・各種建築物の計画 (集合住宅の計画)	8	・各種建築物の計画 (事務所・小学校の計画)	8	・建築設備の計画 (空調・換気設備)	6
		・各種建築物の計画 (小学校の計画)	3	・建築設備の計画 (電気・防災・搬送設備)	6
		・都市と地域の計画 (都市と 都市計画・制度と都市計画法)	3		

教材
建築計画 (実教出版)

授業の進め方
<ul style="list-style-type: none"> ・授業は教科書を参考にしながら、独自のプリントを中心に進め、デジタル黒板も利用しつつ示される内容を しっかり確認しながらプリントを完成させる。 ・DVD 教材や模型を活用し、実際の現場を意識させイメージを持たせる。

●評価規準 (身に付ける力)

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	住宅の役割・種類をはじめ、住宅を構成する基本的な空間や住宅の性能、住宅計画の進め方のほか、計画上の特質などを理解している。	建築物の設計や計画をする際に生じる環境問題の解決を目指して自ら思考・判断し、創意工夫する能力を身につけると共に、その成果を適切に表現できる。	建築物を取り巻く環境に関心を持ち、これらに関する基礎的な知識や技術の習得に意欲を持って取り組むと共に、建築物の環境計画に活用しようとする態度を身に付けている。
評価方法	・ペーパーテスト (事実的な知識の習得を問う問題及び知識の概念的な理解を問う問題)の結果	・ペーパーテスト ・プリントの記述内容	・授業中の発言内容や行動観察 ・生徒による自己評価や、相互理解の様子及び記述内容

単元別 評価規準

1 建築と環境

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	建築物に影響する、気候条件、社会的条件、などの環境についての知識を習得している。	優れた建築を実現するため、取り巻く環境、都市計画、環境工学、建築設備の知識の習得だけでなく意匠に対する考察もできる。	光、熱、空気などの自然条件が建築物に与える影響や、快適な生活環境を作るにあたっての基本的な知識の習得に積極的に取り組んでいる

2 住宅の計画

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	建築物を取りまく環境をはじめ、日本の気候、建物の内部を快適な室内気候にするための諸要素、室内空気汚染や換気・通風の基本的な事項、必要換気回数の計算方法などを理解している。	建築物を取りまく環境をはじめ、日本の気候、建物の内部を快適な室内気候にするための諸要素、を理解し基本的な事項や計算方法などを正しく求めることができる。	建築物を取り巻く環境に関心を持ち、これらに関する基礎的な知識や技術の習得に意欲を持って取り組むと共に、建築物の環境計画に活用しようとする態度を身に付けている。

教 科 工業(建築)

科目	建築施工	(必修)	授業時数	2 単位
			履修学年	3 学年

目 標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、建築物の施工に必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。 (1) 建築物の施工について安全性や環境への配慮を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 建築物の施工に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の発展に対応し解決する力を養う。 (3) 安全で安心な建築物を施工する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
------------	---

●学習内容

1 学期	24 時間	2 学期	30 時間	3 学期	24 時間
○「建築施工」を学ぶにあたって ○第1章 工事の準備 1. 地盤と敷地の調査, 確認 2. 仮設工事 3. 安全衛生管理 ○第2章 地盤から下の工事 1. 土工事及び杭・事業工事の種類と流れ 2. 土工事・山留め	24	3. 杭工事 4. 事業工事 ○第3章 木構造の工事 1. 基礎 2. 在来工法の骨組み 3. 枠組み壁工法の躯体 4. 外部仕上げ 5. 内部仕上げ	30	○第4章 鉄筋コンクリート構造の工事 1. 鉄筋コンクリート工事 2. 基礎 3. 躯体	24

教材
建築施工 (実教出版) 工業 768

授業の進め方
<ul style="list-style-type: none"> ・一般の生産業と比較して、建築生産というものの特殊性を把握させる。 ・建築生産の中における最終過程である建築施工の目的及び特性を理解させるとともに、地域や社会環境にどのような影響を及ぼしているかなど説明しながら進める。 ・建築施工の準備から建築物の完成までの各工事の順序に従って、その一連の流れを把握させる。

●評価規準 (身に付ける力)

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	<ul style="list-style-type: none"> ・建築工事に関する各種の工法など建築施工に関する基礎的な知識を身に付け、建築生産技術の意義や役割を理解しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建築施工に関する基礎的な知識をもとに実際の建築生産技術について考え、諸問題を発見し、その解決を目指して自ら思考を深め、適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建築施工に関する基礎的な知識と技術について関心を持ち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに実際に活用しようとする創造的、実践的な態度を身に付けようとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の結果 ・必要な課題の提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の結果 ・必要な課題の提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な出席数 ・授業や課題への取り組み姿勢

単元別 評価規準

1 工事の準備

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	工事の準備に関する基礎的な知識と技術を身に付け、建築敷地の調査、測量の方法の意義や役割を理解している。	工事の準備に関する基礎的な知識と技術をもとに、敷地調査、測量方法を思考するとともに、実際に活用するさいに適切な判断ができる能力を身に付けている。	工事の準備の基礎的な知識と技術について関心をもち、建築敷地の調査、測量の方法の習得に向けて意欲的に取り組み、実際に活用しようとする態度を身に付けている。

2 地盤から下の工事

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	地面から下の工事に関する基礎的な知識と技術を身に付け、土工事および杭・地業工事の意義や役割を理解している。	地面から下の工事に関する基礎的な知識と技術をもとに、土工事および杭・地業工事の概要を思考するとともに、実際に活用するさいに適切な判断ができる能力を身に付けている。	地面から下の工事に関する基礎的な知識と技術について関心をもち、土工事および杭・地業工事の概要の習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする態度を身に付けている。

3 木構造の工事

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	木構造の基礎に関する基礎的な知識と技術を身に付け、基礎工事の工法の意義や役割を理解している。	木構造の基礎に関する基礎的な知識と技術をもとに、基礎工事の工法について思考するとともに、実際に活用するさいに適切な判断ができる能力を身に付けている。	木構造の基礎に関する基礎的な知識と技術について関心をもち、基礎工事の工法の習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする態度を身に付けている。

4 鉄筋コンクリート構造の工事

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	鉄筋コンクリート構造の鉄筋コンクリート工事に関する基礎的な知識と技術を身に付け、その工事の意義や役割を理解している。	鉄筋コンクリート構造の鉄筋コンクリート工事に関する基礎的な知識と技術をもとに、その工事について思考するとともに、実際に活用するさいに適切な判断ができる能力を身に付けている。	鉄筋コンクリート構造の鉄筋コンクリート工事に関する基礎的な知識と技術について関心をもち、その工事の習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする態度を身に付けている。

教 科 工業(建築)

科目	建築構造設計	(必修)	授業時数	2 単位
			履修学年	3 学年

目 標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、建築物の構造計算に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 構造物の設計について構造物の安全性を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 構造物に関する力学的な課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。 (3) 安全で安心な構造物を設計する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
------------	--

●学習内容

1 学期	24 時間	2 学期	30 時間	3 学期	24 時間
第 1 章 構造物に働く力 1. 建築物に働く力 ・力学的に見た建築物 2. 力の基本 ・力の合成と分解 ・力の釣合い 3. 構造物と荷重および外力 ・支点と節点 ・荷重および外力 4. 反力 ・反力の求め方 5. 安定・静定 ・構造物の安定・不安定 ・構造物の静定・不静定	4 8 4 4 4	第 2 章 静定構造物の部材に生じる力 1. 構造物に生じる力 ・構造物に生じる力の種類 ・部材に生じる力の求め方と表し方 2. 静定梁 ・単純梁 ・片持梁 3. 静定ラーメン ・片持梁系ラーメン ・単純梁系ラーメン 4. 静定トラス ・トラスの解法 ・トラス部材に生じる力 ・節点法 ・切断法	8 8 8 6	第 3 章 部材の性質と応力度 1. 断面の性質 ・断面一次モーメントと図心 ・断面二次モーメント ・断面係数 ・断面二次半径 2. 構造材料の力学的性質 ・応力度・ひずみ度 ・弾性体の性質 ・材料の強さと許容応力度 3. 部材に生じる応力度 ・曲げモーメントを生じる部材 ・引張力を生じる部材 ・圧縮力を生じる部材	8 8 8

教材
実教 7 4 8 建築構造設計

授業の進め方
<ul style="list-style-type: none"> ・授業は教科書を参考にしながら、独自のプリントを中心に進め、デジタル黒板も利用しつつ示される内容を しっかり確認しながらプリントを完成させる。 ・DVD 教材や模型を活用し、実際の力のかかり具合を意識させイメージを持たせる。

●評価規準（身に付ける力）

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	構造物の設計について構造物の安全性を踏まえて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	構造物に関する力学的な課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。	安全で安心な構造物を設計する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテスト (事実的な知識の習得を問う問題及び知識の概念的な理解を問う問題)の結果 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテスト ・プリントの記述内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言内容や行動観察 ・生徒による自己評価や、相互理解の様子及び記述内容

単元別 評価規準

1 構造物に働く力

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	建築物を観察し、建築物に働くさまざまな力を理解しているとともに、建築物を力学上の表現で表すことができる。	建築物の力学的な特性に着目して、構造物に働く力に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善している。	建築物に働く力の分類およびその影響に関して自ら学び、安全で安心な構造物の設計に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

2 静定構造物の部材に生じる力

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	静定構造物に働く力について力のつり合い条件や応力を踏まえて理解しているとともに、図に表すことができる。	構造物の力学的な特性に着目して、構造物に働く力に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善している。	静定構造物に働く力について自ら学び、安全で安心な構造物の設計に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 部材の性質と応力度

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	部材に関する力学について応力度や断面の力学的な性質を踏まえて理解しているとともに、断面一次モーメント、断面二次モーメント、断面係数、断面二次半径および断面の主軸を求めることができる。	部材断面に生じる力と変形の関係に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善している。	部材の設計について自ら学び、安全で安心な構造物の設計に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

教 科 工業(建築)

科目 課題研究	(必修)	授業時数 3 単位
		履修学年 4 学年

目 標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して工業の諸問題を適切に解決することに必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 配置図・平面図・立面図・断面図などを正しく読み、図面を構想し、建築模型（軸組・紙模型）の作成する能力を育てる。
------------	--

●学習内容

1 学期	24 時間	2 学期	30 時間	3 学期	24 時間
1 製図の基礎と応用 ・木造平屋建て自由設計 (プランニング) ・木造平屋建て自由設計 (配置図、平面図)	12 12	2 基礎的な造形技術 自由設計で考えた木造平家建 住宅の軸組製作 (縮尺 = 1 / 20) 自由設計で考えた木造平家建 住宅の外観模型 (スチレンボード) 製作 (縮尺 = 1 / 100)	15 15	3 プレゼン用図面作成 CAD (JW-CAD) 使用方法と プレゼン用図面の作成	24

教材
建築設計製図 (実教出版) 工業 705

授業の進め方
工業の各分野に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 工業の各分野の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う 工業の各分野に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

●評価規準 (身に付ける力)

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	工業の各分野に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	工業の各分野の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。	工業の各分野に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的な態度に取り組む態度を身に付けている。
評価方法	・授業態度や発言内容及び 作品の成果	・授業態度や発言内容及び 作品の成果	・必要な出席数 ・授業や課題への取り組み姿勢

単元別 評価規準

1 製図の基礎と応用

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	住宅および住環境の設計を通して、基礎的な建築設計に関する知識と技術を身に付け、生産活動における建築設計の社会的意義や役割を身に付けている。	住宅およびその環境の設計において、住宅建築に関する望ましい空間構成を思考し、それぞれの諸条件に適応した生活空間を判断し、住みやすい住環境を表現できる。	生活環境や生活形態における住宅のありかたを通して、住宅建築に関する基礎的な技術に関心を持ち、主体的に学習に取り組み、合理的な住環境を工夫する実践的な態度を身に付けている。

2 基礎的な造形技術

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	住宅模型の製作を通して、住宅計画および建築段階の検討要素が確認できる関係知識と技術を身に付け、生産活動における住宅の社会的意義や役割を身に付けている。	住宅模型の製作において、各部材の望ましい加工方法をみずから思考・判断し、効率よい加工や製作工程を創意工夫し、表現する能力を身に付けている。	住宅模型は住宅計画の検討手段として重要であることに関心を持ち、主体的に住宅模型製作に意欲的に取り組むとともに、安全で合理的に製作をする実践的な態度を身に付けている。

3 プレゼン用図面作成

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	製図における基本的な図面のみかたや表しかた、かきかたを理解し、正確な図面を、専用ソフトを使用し制作できる知識と技術を身に付けている。	製図における基本的な図面のみかたや表しかた、かきかたについて、適切に思考・判断し、正確な図面を、専用ソフトを使用し作成する表現手法を身に付けている。	製図における基本的な図面のみかたや表しかた、かきかたに主体的に興味・関心を持ち、正確な図面を専用ソフトを使用し作成でき、意欲的に取り組む態度を身に付けている。

教 科 工業(建築)

科目	実 習	(必修)	授業時数	3 単位
			履修学年	4 学年

目 標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、工業（建築）に関する基礎的技術を実験・実習によって体験させ、工業（建築）技術への興味・関心を高める。</p> <p>「建築構造」・「建築計画」・「設計製図」などとの有機的な関連のもとに、調査・計画・設計・監理・施工の一連の過程を理解させる。</p>
-----	---

●学習内容

1 学期	24 時間	2 学期	30 時間	3 学期	24 時間
1 基礎的な分析及び測定技術		2 基礎的な造形技術（木造平家建住宅の模型制作）	30	3 プレゼン用図面作成	24
測量技術の基礎	12			CAD（JW-CAD）使用方法と	
レベル、トランシット		3年での自由設計で考えた木造平家建住宅の外観模型		プレゼン用図面の作成	
レベル、トランシット測量の応用	12	（スチレンボード）製作（縮尺＝1／100）			

教材
建築設計製図（実教出版）工業 705

授業の進め方
<p>工業の各分野に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>工業の各分野の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う</p> <p>工業の各分野に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>

●評価規準（身に付ける力）

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	工業の各分野に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	工業の各分野の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。	工業の各分野に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的な態度に取り組む態度を身に付けている。
評価方法	・授業態度や発言内容及び作品の成果	・授業態度や発言内容及び作品の成果	・必要な出席数 ・授業や課題への取り組み姿勢

単元別 評価規準

1 基礎的な分析及び測定技術

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	実践的な測量技術の知識を習得し、測量実習を行うことによりその技術を習得して、日常生活の中での測量の意義や役割を身に付けている。	測量に関する基礎的な技術について、適切に思考・判断し、さまざまな条件や環境における測量方法を選択し、表現することができる。	主体的に測量に関する基礎的な技術について関心を持ち、意欲的に測量器械を活用する創造的、実践的な態度を身に付けている。

2 基礎的な造形技術

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	住宅模型の製作を通して、住宅計画および建築段階の検討要素が確認できる関係知識と技術を身に付け、生産活動における住宅の社会的意義や役割を身に付けている。	住宅模型の製作において、各部材の望ましい加工方法をみずから思考・判断し、効率よい加工や製作工程を創意工夫し、表現する能力を身に付けている。	住宅模型は住宅計画の検討手段として重要であることに関心を持ち、主体的に住宅模型製作に意欲的に取り組むとともに、安全で合理的に製作をする実践的な態度を身に付けている。

3 プレゼン用図面作成

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	製図における基本的な図面のみかたや表しかた、かきかたを理解し、正確な図面を、専用ソフトを使用し作成できる知識と技術を身に付けている。	製図における基本的な図面のみかたや表しかた、かきかたについて、適切に思考・判断し、正確な図面を、専用ソフトを使用し作成する表現手法を身に付けている。	製図における基本的な図面のみかたや表しかた、かきかたに主体的に興味・関心を持ち、正確な図面を、専用ソフトを使用し作成でき、意欲的に取り組む態度を身に付けている。

教 科 工業(建築)

科目	製図	(必修)	授業時数	2 単位
			履修学年	4 学年

目 標	製図に関する基本的な製図の見方・考え方を働かせ、製図に関する日本産業規格について学習し、建築科の専門分野の製図について基礎的な知識と技術を習得させる。 配置図・平面図・立面図・断面図などを正しく読み、図面を構想し作成する能力を育てる。
-----	--

●学習内容

1 学期	24 時間	2 学期	30 時間	3 学期	24 時間
○製図の基礎	24	○製図の基礎	30	○製図の基礎と応用	24
<ul style="list-style-type: none"> ・鉄筋コンクリート造 設計製図(平面図)の作図 ・鉄筋コンクリート造 設計製図(配置図)の作図 製図の基礎を十分把握させ、建築製図に関する基本的な知識と技術を総合的に習得させる。		<ul style="list-style-type: none"> ・鉄筋コンクリート造設計製図(立面図、断面図) ・鉄筋コンクリート造設計製図(各伏図、軸組図) ・鉄筋コンクリート造設計製図(断面詳細図) 詳細図面を作図し建築構造の理解を深める		<ul style="list-style-type: none"> ・自由設計(プランニング) ・自由設計(配置図、平面図) 自由設計を通し様々な建築図面を正しく読み、図面を構想し作成する能力を養えるようにする。	

教材
建築設計製図(実教出版) 工業 705

授業の進め方
<ul style="list-style-type: none"> ・工業の各分野に関する製図について日本産業規格を踏まえて理解させ、関連する技術を身に付ける。 ・製作図や設計図に関する課題を発見し、工業に携わる者としての科学的根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する能力を養う。 ・工業の各分野における部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指す。

●評価規準(身に付ける力)

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	<ul style="list-style-type: none"> ・工業の各分野に関する製図について日本産業規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・製作図や設計図に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工業の各分野における部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・図面の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・図面の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な出席数 ・授業や課題への取り組み姿勢

単元別 評価規準

1 製図の基礎

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	・製図の役割について工業の各分野の製図の規格と図面の表し方を踏まえて理解させるとともに、手描きによる図面の作成に必要な技術を身に付けている。	・製図の規格と図面の表し方に着目して、製図の役割に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善している。	・製図の役割について自ら学び、工業の各分野の製図に主体的かつ協働的に取り組んでいる。

教 科 工業(建築)

科目	建築施工	(必修)	授業時数	2 単位
			履修学年	4 学年

目 標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、建築物の施工に必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。 (1) 建築物の施工について安全性や環境への配慮を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 建築物の施工に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の発展に対応し解決する力を養う。 (3) 安全で安心な建築物を施工する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
------------	---

●学習内容

1 学期	24 時間	2 学期	30 時間	3 学期	24 時間
○建築物のライフスタイルと環境への配慮		○建築業務	30	○建築工事費の算出（積算の種類と方法）	
1 建築物のライフ際クル（ライフ際クルマネジメント・保全・保全方法）	8	1 工事契約と施工管理（現場組織の編成）	8	1 建築工事費の算出（積算方法）	8
2 解体工事（解体の種類・工事の流れ）	8	2 工事契約と施工管理（施工管理）	7	2 建築工事費の算出（積算方法）	8
3 環境保全（建設副産物・廃棄物）	8	3 工事契約と施工管理（施工管理）	7	3 建築工事費の算出（建築工事内訳書）	8
		4 工事契約と施工管理（ネットワーク）	8		

教材
建築施工（実教出版）工業 768

授業の進め方
<ul style="list-style-type: none"> ・一般の生産業と比較して、建築生産というものの特殊性を把握させる。 ・建築生産の中における最終過程である建築施工の目的及び特性を理解させるとともに、地域や社会環境にどのような影響を及ぼしているかなど説明しながら進める。 ・建築施工の準備から建築物の完成までの各工事の順序に従って、その一連の流れを把握させる。

●評価規準（身に付ける力）

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 （身に付ける力）	<ul style="list-style-type: none"> ・建築工事に関する各種の工法など建築施工に関する基礎的な知識を身に付け、建築生産技術の意義や役割を理解しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建築施工に関する基礎的な知識をもとに実際の建築生産技術について考え、諸問題を発見し、その解決を目指して自ら思考を深め、適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けてようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建築施工に関する基礎的な知識と技術について関心を持ち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに実際に活用しようとする創造的、実践的な態度を身に付けようとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の結果 ・必要な課題の提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の結果 ・必要な課題の提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な出席数 ・授業や課題への取り組み姿勢

単元別 評価規準

1 建築物のライフスタイルと環境への配慮

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	建築物のライフスタイルに関する基礎的な知識と技術を身に付け、建築物の保全、解体の方法の意義や役割を理解している。	建築物のライフスタイルに関する基礎的な知識と技術をもとに、建築物の保全、解体の方法を思考するとともに、実際に活用する際に適切な判断ができる能力を身に付けている。	建築物のライフスタイルの基礎的な知識と技術について関心をもち、建築物の保全、解体方法の習得に向けて意欲的に取り組み、実際に活用しようとする態度を身に付けている。

2 建築業務

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	建築業務に関する基礎的な知識と技術を身に付け、工事契約と施工管理の意義や役割を理解している。	建築業務に関する基礎的な知識と技術をもとに、工事契約と施工管理を思考するとともに、実際に活用する際に適切な判断ができる能力を身に付けている。	建築業務に関する基礎的な知識と技術について関心をもち、工事契約と施工管理の習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする態度を身に付けている。

3 建築工事費の算出

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	建築工事費の算出に関する基礎的な知識と技術を身に付け、積算の種類と方法の意義や役割を理解している。	建築工事費の算出に関する基礎的な知識と技術をもとに、積算の種類と方法について思考するとともに、実際に活用する際に適切な判断ができる能力を身に付けている。	建築工事費の算出に関する基礎的な知識と技術について関心をもち、建築業務における積算の習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする態度を身に付けている。

教 科 工業(建築)

科目	建築構造設計	(必修)	授業時数	2 単位
			履修学年	4 学年

目 標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、建築物の構造計算に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 構造物の設計について構造物の安全性を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 構造物に関する力学的な課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。 (3) 安全で安心な構造物を設計する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
------------	--

●学習内容

1 学期	24 時間	2 学期	30 時間	3 学期	24 時間
第 4 章 不静定構造物		2 . 荷重および外力の計算	6	第 8 章 木構造	
1. 不静定梁	8	・ 荷重および外力		1. 木構造	8
・ 不静定梁の解法		・ 固定荷重		・ 構造計画	
2. 不静定ラーメン	8	・ 積載荷重	4	2. 壁量設計	8
・ たわみ角法		・ 積雪荷重		・ 壁量設計	
・ 固定モーメント法		・ 風圧力	4	第 9 章 地震被害の低減	
・ 長方形ラーメンの曲げモーメントとせん断力		・ 地震力		1. 耐震構造	8
第 5 章 構造設計の考え方	8	第 6 章 鉄筋コンクリート構造		・ 地震被害と耐震設計のあゆみ	
1. 構造設計の概要		1 . 鉄筋コンクリート構造	8	・ 建築物と地震による揺れ	
・ 構造設計		・ 概要			
・ 構造設計の流れ		・ 鉄筋とコンクリート	8		
・ 主要構造の耐震設計”		・ 鉄筋コンクリート部材の性質			

教材
建築構造設計 (実教出版) 7 4 8

授業の進め方
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業は教科書を参考にしながら、独自のプリントを中心に進め、デジタル黒板も利用しつつ示される内容を しっかり確認しながらプリントを完成させる。 ・ DVD 教材や模型を活用し、実際の力のかかり具合を意識させイメージを持たせる。

●評価規準 (身に付ける力)

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	構造物の設計について構造物の安全性を踏まえて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	構造物に関する力学的な課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。	安全で安心な構造物を設計する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ ペーパーテスト (事実的な知識の習得を問う問題及び知識の概念的な理解を問う問題) の結果 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ペーパーテスト ・ プリントの記述内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中の発言内容や行動観察 ・ 生徒による自己評価や、相互理解の様子及び記述内容

単元別 評価規準

1 不静定構造物

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	不静定構造物に働く力について力のつり合い条件や応力を踏まえて理解しているとともに、図に表すことができる。	構造物の力学的な特性に着目して、構造物に働く力に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善している。	不静定構造物に働く力について自ら学び、安全で安心な構造物の設計に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

2 構造設計の考え方

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	構造設計の概要および建築物の安全性を検証する構造設計の流れを的確に理解しているとともに、安全性を検証する方法について説明することができる。	構造設計の概要および建築物の安全性を検証する流れに関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善している。	建築物の構造設計法に関心を持ち、構造設計の流れについて主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 鉄筋コンクリート構造の設計

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	鉄筋コンクリート構造の設計の概要と設計法について構造体による手法の違いを踏まえて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	鉄筋コンクリート構造の構造的な特徴に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善する力を身に付けている。	各種構造物の設計について自ら学び、安全で安心な構造物の設計に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

4 木構造設計の考え方

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	軸組構法による小規模な木構造に対しての構造計画の考え方を理解しているとともに、説明することができる。	軸組構法による小規模な木構造に対しての構造計画に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善している。	軸組構法による小規模な木構造に対しての構造計画に関心を持ち、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

5 地震被害の低減

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	建築物の耐震設計について概要と設計法を踏まえて理解しているとともに、考え方について説明することができる。	建築物の地震に対する安全性に着目して、建築物の耐震性能に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善している。	建築物の耐震設計の方法について自ら学び、安全で安心な構造物の設計に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

教 科 工業(建築)

科目	建築法規	(必修)	授業時数	2 単位
			履修学年	4 学年

目 標	工業の見方・考え方を働かせ、建築関係法規に関する知識を習得させ、建築物の計画、設計、施工、管理などに活用する能力と態度を育てる。 建築法規が、建築物の安全や衛生を確保する必要性から多くの関係法規によって構成されていることを、具体的な事例を通して理解させるとともに、建築の計画、設計、施工、管理を行ううえで法令遵守の大切さを理解させ、技術者としての倫理観を育成する。
-----	---

●学習内容

1 学期	24 時間	2 学期	30 時間	3 学期	24 時間
第1章 建築法規のあらまし		第3章 良好な都市環境をつくるための規定		第4章 手続きなどの規定	
1 建築法規の起源	4	1 都市計画法と建築基準法	5	1 手続きのあらまし	3
2 建築法規の意義	4	2 土地利用	5	2 手続きに関する機関	3
3 法規の体系と建築基準法の構成	4	3 道路と敷地	5	3 着工前の手続き	3
4 建築基準法の基本用語	3	4 密度に関する規定	5	4 工事中の手続き	3
第2章 個々の建築物にかかわる規定		5 形態に関する規定	5	5 使用中の手続き	2
1 一般構造・建築設備についての規定	3	6 良好なまちづくり	5	6 違反建築物などに対する措置	2
2 構造強度についての規定	3			7 その他の制度	2
3 防火と避難についての規定	3			第5章 各種の関係法規	
				1 設計と工事の段階にかかわる法規	2
				2 良好な建築を促進する法規	2
				3 その他の法規	2

教材
建築施工（実教出版）工業 768

授業の進め方
<ul style="list-style-type: none"> ・授業は教科書を参考にしながら、独自のプリントを中心に進め、デジタル黒板も利用しつつ示される内容を しっかり確認しながらプリントを完成させる。 ・DVD 教材や模型を活用し、実際の力のかかり具合を意識させイメージを持たせる。

●評価規準（身に付ける力）

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 （身に付ける力）	建築法規を包括的に学習し、建築生産に役立つ実践的な知識を身付け、建築法規に関する知識を建築物の設計や施工にかかわる業務に活用できる。	建築法規の役割について思考を深め、種々の事例に対して知識・技能を生かして適切に判断し、建築の計画・設計・施工などの学習において的確に表現できる。	建築物や都市生活の安全性、良好な都市環境を保つ観点などから、建築法規の必要性や諸問題などについて幅広く関心をもち、主体的に学習に取り組んでいる。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の結果 ・必要な課題の提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の結果 ・必要な課題の提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な出席数 ・授業や課題への取り組み姿勢

単元別 評価規準

1 建築法規のあらまし

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	<ul style="list-style-type: none"> 今日の建築基準法に至る建築法規の歴史の変遷と社会的背景を学習し、建築法規の重要性を理解している。 建築基準法の基本的な用語の定義や面積・高さ・階数などの算定方法を理解し、実際の事例に適用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 建築物の特性から生じるルール(規定)の必要性と効果などについて思考し、建築基準法の具体的規定との結びつきを説明することができる。用語の定義や面積・高さ・階数等の算定方法の重要性や背景について思考し、事例に応じた適用を判断することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今日の建築基準法に至る建築法規の歴史の変遷に関心を持ち、その背景の理解に意欲的に取り組んでいる。「個人の自由な意志の尊重」と「公共の福祉の増進」の観点から、建築基準法の必要性や効果などに関心を持ち、実践的な学習に役立てようとしている。

2 個々の建築物にかかわる規定

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	<ul style="list-style-type: none"> 居室の採光と換気、天井と床の高さ、階段などの規制に関する算定能力を身に付け、建築の計画や設計に活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 居室の採光と換気、天井と床の高さ、階段などに関する規定と建築の計画や設計とのかかわりについて思考し、建築の計画や設計に的確に表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 居室の採光と換気、天井と床の高さ、階段などに関する規定の背景や諸問題に関心を持ち、建築の計画や設計の学習に役立てようとしている。

3 良好な都市環境をつくるための規定

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画法に基づく建築基準法の集団規定のしくみと意義を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画法に基づく建築基準法の集団規定の必要性や効果について説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画法に基づく建築基準法による集団規定の目的や背景などに関心を持ち、意欲的に学習している。

4 手続きなどの規定

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	<ul style="list-style-type: none"> 建築生産の段階に応じて定められる建築基準法上の手続きの流れを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 建築基準法に基づく主要な手続きのプロセスと建築生産とのかかわりについて思考を深め、建築の計画や設計の学習において的確に表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 建築基準法に基づく手続きのしくみについて 関心を持ち、建築の計画や設計の学習に役立てようとしている。

5 各種の関係法規

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	<ul style="list-style-type: none"> 建築士法や建設業法など、設計や施工の業務とかかわりの深い関連法規の内容を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 建築士法や建設業法などと建築の企画や設計・工事との実際的なかかわりについて思考し、事例に対して適切な判断能力を身に付け、建築計画や設計・施工の学習において的確に表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 建築士法や建設業法などについて 関心を持ち、建築計画や設計・施工の学習に役立てようとしている。